

5月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類	2,364	101	2,452	774	101	729	0	0.0	栃木、福岡、佐賀、静岡産中心の入荷となる。栃木の降雪被害は現在回復し、入荷量は前年並みとなる。全体の入荷量、価格は前年並みの見込み。
びわ	197	91	190	1,315	115	1,372	-	0.0	長崎、千葉産中心の入荷となる。昨年の夏の猛暑により生育遅れが見られるが、作柄は悪くない。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を上回る見込み。
すいか類	6,405	104	6,294	237	98	236	18	0.3	熊本、千葉、茨城産が中心となる。3月以降の好天により着果状況が良く、全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。
メロン類	3,765	97	3,714	440	106	451	-	0.0	茨城、熊本、静岡産が中心となる。春先の好天で着果・肥大・品質良い。茨城は早生品種の作付が減少し、出始めは少なめ。主産地のアンデス・クインシーは4月下旬～5月中旬にピークとなり、前年並みの数量が確保できる見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。
マンゴー	117	100	125	2,987	100	2,887	-	0.0	宮城県産が殆んどを占める。作柄よく、上位等級の発生率も高い。「太陽のたまご」として出荷できるものがレギュラー品として出荷したりするため、全体のレベルも高く、引き合いが強い。母の日ギフト商材として定番化している。入荷量、価格ともに前年並みと見込まれる。